

第16回国際理解教育研究上川・旭川大会終了のお礼にかえて

上川・旭川国際理解教育研究協議会 会長 五十嵐 一之
(旭川市立高台小学校長)

第16回北海道国際理解教育研究大会上川・旭川大会が、旭川クリスタルホールを会場に、盛会のうちに終了することが出来ました。ここに、各関係機関並びに全道の会員の皆様方の温かいご支援やご助言に、心より感謝申し上げます。

さて、上川・旭川国際理解教育研究協議会は、昭和54年に会が発足して以来「身近な国際理解の実践」を研究の柱として継続した取り組みを続けてきたところでありますが、昭和62年の第8回道旭川大会以降は、授業研究を柱とした取り組みに力を入れてきたところであります。

今大会では、第8回旭川大会の主題を継承し、「すべての学校における身近な国際理解教育の推進」を求めて、どの学校でも誰でもが国際理解教育の視点に立って容易に出来る授業の実践を試みたわけです。

具体的な成果と課題につきましては、追って「大会のまとめ」で報告させていただきますが、道研の中村室長さんから、今大会の総括的な感想をいただきましたので、その概略を掲載させていただきます、お礼にかえさせていただきます。

- 1 上川・旭川の地域性に立脚し、地域として過去の研究との継続性・発展性がある。
- 2 第15回石狩大会の研究成果を継承し発展させている。
- 3 基本目標表に関連つけた国際理解教育に関する年間指導計画のモデルを作成し、すべての学校における実践化を強く意図している。
- 4 より身近であるとともに、大胆かつ柔軟な発想で授業構成をしている。
- 5 余裕と熱気と結束力のある絶妙な大会運営であった。

各地区の研究報告

網走管内国際理解教育研究大会の報告

実践研究を積み上げられている網走支部より管内研究大会での研究実践を報告していただきました。今回の網走市立第五中学校を会場としての研究大会も8回目を数え、年々、充実した研究については高い評価を得ています。

大会主題 『国際社会に生きる人間性豊かな児童生徒の育成』
～学校や地域社会における国際理解教育をどう進めるか～

期 日 平成7年11月16日(木)
後 援 北海道教育庁網走教育局 網走管内教育委員会協議会
網走市教育委員会 興部町教育委員会
網走市小中学校校長会 興部町小中学校校長会
会 場 網走市立第五中学校
協力校 網走市立第五中学校 興部町立秋里小学校

授業公開 ○選択数学 『数学で世界発見!』
指導者 網走市立第五中学校教諭 中嶋 革
○特別活動 クラブ活動 英語劇『おおきなかぶ』
指導者 興部町立秋里小学校教諭 木山良市
興部町英語指導助手 ロンディメイ・林ツツ

全体会 ①国際理解教育実践発表
発表者 網走市立第五中学校教諭 中嶋 革
興部町立秋里小学校教諭 木山良市
助言者 副会長 伊與田遼造
(留辺菰町立留辺菰小校長)

②研究発表・研究協議
発表者 津別町立津別中学教諭 吉田 寛
『国際社会に生きる人間性豊かな児童生徒の育成』
助言者 顧問 豊嶋隆範

釧路地方国際理解教育研究大会の報告

平成9年度の全国大会開催に向け、着実に研究実践を積み重ねている釧路支部より、今年度も、内容の充実した活動報告が届いております。

釧路地方国際理解教育研究会では、毎年授業を中心に研修交流、研究大会、外国人をお招きしてのシンポジウム、会報の発行、世界各国の日本人学校との交流、海外視察報告会などの活動を通して、国際理解教育の研究実践活動を行っています。

今年度は、平成7年6月9日の総会、報告会（バンドン日本人学校の生活 浜中町立霧多布中学校 笠島 博教諭）、第22回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会広島大会への参加、さらに平成7年12月8日（金）釧路地方国際理解教育研究会が開催されました。研究会には多くの参加者があり、大きな成果を上げることができました。

テーマ 『学校教育において国際理解教育をどう進めていくか』

日時 平成7年2月8日（金）

主催 釧路地方国際理解教育研究会・釧路教育センター

会場 小学校会場 釧路市立湖畔小学校 中・高等学校会場 釧路市立東中学校
授業公開

○社会科 指導者 釧路市立湖畔小学校教諭 藤島 稔弘

○数学科 指導者 釧路市立東中学校教諭 佐藤 弘樹

研究協議 ・『学校教育において国際理解教育の進め方』

～国際理解教育の全体計画、効果的な指導法～

・『いつでも、誰でも、何処でも無理なくできる』国際理解教育について

助言者 釧路教育局担当指導主事

尾崎 信幸

釧路地方国際理解教育研究会

田畑 雅皓

札幌国際理解教育研究会の活動報告

平成8年度全道大会札幌大会をひかえ札幌地区もいよいよ忙しくなってきたようです。

《公開研修会》（平成7年6月17日）札幌市立真駒内緑小学校

帰国報告

ボンベイ日本人学校の勤務を終えて

札幌市立真駒内緑小学校長

山内 武道

フランクフルト日本人学校の勤務を終えて

札幌市立山鼻中学校教諭

橋本 フミエ

研究協議 札幌の「国際理解教育」の研究方向

研究部

白石 邦彦

《第11回札幌国際理解教育研究大会》（平成7年8月31日）

会 場 札幌市立発寒南小学校
後 援 北海道国際理解教育研究協議会 札幌市教育委員会
札幌市姉妹校連絡協議会 札幌国際プラザ 北海道通信社

研究主題 『国際社会に生きる日本人の育成』

～いつでも、だれでも、どこでも実践可能な「国際理解教育」の授業の創造～

授業公開 4年 社会 「わたしたちの北海道」 授業者 古里 和雄 教諭

研究討議 研究の取り組み・授業構築について

研究部 白石邦彦（札幌市立平岡公園小学校教諭）

研修部 中村 淳（札幌市立真駒内緑小学校教諭）

《授業研修会》（平成7年2月19日）

小学校国際理解教育指導資料『いつでも、どこでも国際理解』（北海道国際理解教育研究協議会カリキュラム検討委員会編）3年音楽『音楽に国籍なし！世界の子どもの歌』を元に研修部・研究部が共同でつくりあげました。

会 場 札幌市立真駒内緑小学校

授業公開 3年 音楽 『楽器で楽しく』

指導者 札幌市立真駒内緑小学校教諭 隅本一哉

《冬季学習会・講演会》（平成8年1月12日）

会 場 北海道生涯学習センター

講 演 講 師 福田 閏三（札幌国際理解教育研究会会長）

石田 省子（北海道国際理解教育研究協議会会長）

学習会 全道大会に向け 研究主題・めざす子ども像 白石邦彦

研究仮説と視点について 中村 淳

折りからの大雪の中30名近くの先生が集まり全道大会への取り組みなど、今後の指針となる話し合いが夕食をはさみ続けられました。

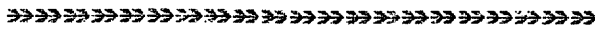
《JAPAN PROJECT'96への参加》

アメリカ・リトルロック市よりの学習指導体験者受け入れ

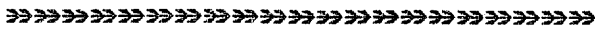
主 催 SESEの会 …札幌国際理解教育研究会・（社）札幌青年会議所
札幌ユネスコ協会・白石リラの会

後 援 国際プラザ・札幌市教育委員会 ・札幌市立小・中・高・学校長会

JAPAN PROJECT'96として6月に米国アーカンソー州のリトルロック市よりの6名の教員（小・中・高・特殊養護）が、札幌市教育施設に派遣されます。各学校で学習指導の体験を行う予定です。今、受け入れの準備が進んでいます。



上川・旭川大会における全道各支部の交流内容



十勝支部 昭和51年海外教育事情研究会としてスタートした十勝支部。多くの市民・留学生・大学関係者を含めた、国際理解教育研究交流会も33回も数えるなど着実に成果を上げてきています。

平成7年2月 第33回国際理解教育研修交流会 パネルディスカッション『今、国際理解教育を市民の手で』平成8年3月『どこの学校でもできる国際理解教育』～十勝版～発行予定など活発な活動がされています。

留萌支部 平成2年3月108名の会員をもって設立され、オスマン・サンコン氏を講師に、第11回北海道国際理解教育研究大会を開催しました。

平成7年11月2日 第6回留萌管内国際理解教育研究大会羽幌大会開催。管内を3ブロックに分け、ローテーションを組んで研究大会を開催しています。視察報告会など、他の教育研究団体とのタイアップなどを試行されています。

函館支部 函館では交流推進活動として、北海道国際交流センターの講座に参加の留学生を、小学校での児童活動に参加してもらう窓口になるなど、函館地区における国際交流活動に積極的に参加されています。

後志支部 平成7年度活動内容としては「日本人学校体験報告会」（8月実施）「外国人から見た日本人の印象を聞く会」（10月実施）各種研究大会参加への呼び掛けや「海外派遣経験者と国際理解教育を語る会」（1月実施）などの活動を行っています。

日高支部 平成7年度日高管内海外教育事情研究大会
テーマ『世界に目を開く児童・生徒の育成』

～学校と地域において国際理解教育をどう進めるか～

後援	北海道教育庁日高教育局 新冠町教育委員会 北海道海外教育事情研究会 北海道国際理解教育研究協議会
会場	新冠町東川小学校・新冠町町民センター
公開授業	5, 6年 社会科 『近くて遠い国, 韓国』
	指導者 新冠町東川小学校教諭 野表 義広
体験発表	AET ローラ・ルフィーノ(日高教育局) ドナルド・ウイン・カメードセン(平取町)

講演 『国際理解と私』 札幌市立北園小学校長 斎田 省二

檜山支部 平成7年度檜山国際理解教育研究大会

テーマ 『学校や地域に応じた国際理解教育をどう進めるか』

公開授業 5年 社会科 『伝統に生きる工業』

指導者 厚沢部町立厚沢部小学校教諭 佐藤 光博

研究発表 研究部長 池田 勝俊 (瀧澤小学校長)

講演 『学校における国際理解教育の推進』

北海道立教育研究所教育経営研究部教育行財政研究室長

中村 保

渡島支部 第12回渡島国際理解教育研究大会

テーマ 『国際理解教育の望ましいあり方をもとめて』

公開授業 特別教育活動 『男女のちがい』

指導者 八雲町立八雲小学校教諭 阿部 正憲

研究発表 木古内町における国際交流・国際教育の実践例

木古内町立木古内小学校長 藤本 伸治

空知支部 国際理解研修会(講演会)

演題 『ロシア人の見た日本・日本人の教育』

講師 教育大学岩見沢分校留学生 マリーナさん

その他に実践交流会、会報の発行、派遣教師激励会、国際理解教育実践資料の収集、国際理解教育移動展実施などを通して研究課題「国際性豊かな児童・生徒の育成」に迫っています。

上川・旭川支部

今年度、全道大会で支部としての力量を遺憾なく発揮された上川・旭川支部は、昭和54年発足以来支部の研究大会も数えること10回を数え、今年度の全道大会も2回目の開催となりました。

支部の特徴ある活動としまして平成4年学校5日制実施を前に世界87か国の日本人学校へアンケート調査を実施し、その調査報告集を上川管内の全ての学校に配布し『対応策の参考になった。』など、大きな反響を呼んだことがあげられます。

また、第8回大会において、全道、全国に先駆けて、国際理解教育の研究会に初めて授業研究を取り入れ、以来『身近な国際理解教育』を展開してきました。当初は、帰国した教師の授業を通して、教師の身につけた『国際性・国際感覚』などのように授業に反映させるか……でしたが、指導要領の改定の趣旨

を積極的に受け止め、『いつでも（適時性）・どこでも（地域性・指導領域）
・だれでも（教師の意識化）』できる国際理解教育を目指し、『国際理解教育
への考え方』そのものの変革を求めてきました。

この他、支部においては『海外事情報告会・世界を知る集い』や『国際理解
巡回展』などを実施しています。これらの活動には、学校関係者のみならず一
般市民の参加も多くなってきています。

*今回は多数の報告があり、紙面の都合で十分に、掲載できなかった支部もあり
ました。次回にも、支部の活動内容を掲載したいと思っておりますので、活動報告を、
是非、お寄せください。

平成7年8月1～8日実施！ 国際Jr・ART・CAMPの様子を紹介します！

本会より『オリエンテーション』『国際教室』に会長・事務局長が講師として参加し
ました。2日・4日のオープニングセレモニー・市内見学・学校見学には本部事務局員
や札幌の先生方を中心に得意(?)の語学力を生かし国際交流にがんばられました。

6～8日にはトマムでのキャンプにエスコートの先生の案内係りとして10名以上の
先生が泊まりがけで活躍されました。……ご苦労さまでした。



8/6(日) キャンプ・イン・トマム

Camping in Tomamu

朝早くから、キャンプに参加するジュニアが続々と北海道新聞社に
集合し、バスでアルファリゾート・トマムへ出発。

トマムでは、地元古冠村のジュニアも加わり、総勢250名がトマム
の山に集合。オープニングセレモニーでは、日本のジュニア代表が各
国の代表として開会宣言を行い、3日間のキャンプ・イン・トマムが
スタートした。

8/4(後) 5(土) ホストファミリー対面式、ホームステイ、
関係者パーティー(エスコート)

Meeting with Host Families, Homestay, A Reception

北海道立近代美術館を機にして、北海道新聞社A・B会議室に誘
導。ホストファミリー対面式に出席したジュニアたちは、不安と期待
に胸をふくらませながら、2泊3日のホームステイを体験した。

また、エスコートはホストファミリー対面式終了後、実行委員会主
催のパーティーに出席し、実行委員会、協賛社、通・札幌市の国際交
流関係者などと交流を深めた。

5日午前中、エスコート14人は札幌市立真駒内緑小学校で北海道
国際理解教育研究協議会の先生15人との懇談会に出席。山内武雄校長
先生の案内で同小学校の国際交流室などを見学したり、教育事情に
ついての貴重な意見交換をした。



平成8年度在外教育施設派遣教員名簿

管内	所 属	職名	氏 名	派 遣 先		
				国 名	日本人学校名	職名
石狩	石狩町立樽川中学校	教諭	西方 省子	シンガポール	シンガポール	教諭
	恵庭市立柏陽中学校	教諭	橋詰 典明	ペルー	リマ	教諭
	札幌市立西岡北小学校	教頭	安達 紀利	粗(グム)	アガナ	校長
渡島	恵山町立古武井小学校	教諭	黒田 仁志	シンガポール	シンガポール	教諭
後志	古平町立古平小学校	教諭	吉田 貴	香港	香港	教諭
空知	深川市立深川小学校	教諭	大野 伸仁	中国	上海	教諭
	砂川市立砂川小学校	教諭	広川 隆一	米国	ニューヨーク	教諭
	滝川市立開西中学校	教諭	小川 勉	オーストラリア	メルボルン	教諭
上川	上富良野町立清富小学校	校長	妹 新次郎	ベトナム	ハノイ	校長
	旭川市立緑が丘小学校	教諭	齋藤 眞美子	オーストリア	ウィーン	教諭
	美深町立仁字布中学校	教諭	大城 亮二	ミャンマー	ヤンゴン	教諭
	士別市立士別南中学校	教諭	向井 秀樹	バングラデシュ	ダッカ	教諭
	旭川市立北鎮小学校	教諭	馬場 信明	オーストラリア	シドニー	教諭
網走	北見市立高栄中学校	教諭	桜田 弘道	南ア連邦	ヨハネスブルグ	教諭
	滝上町立滝上中学校	教諭	長澤 知博	ブーリア	ベナン	教諭
胆振	室蘭市立港南中学校	教諭	藤田 祐二	韓国	釜山	教諭
日高	浦河町立浦河東部小学校	教諭	斉藤 康輔	台湾	台北	教諭
	様似町立様似中学校	教諭	竹田 淳彦	ドイツ	ハンブルグ	教諭
十勝	帯広市立啓北小学校	教諭	西保俊太郎	スペイン	マドリッド	教諭
	音更町立鈴蘭小学校	教諭	高原 茂雄	ドイツ	デュッセルドルフ	教諭

派遣おめでとうございます!

3年間のご活躍を期待いたします。

帰国者報告会・派遣教員激励会のお知らせ

平成8年度在外教育施設派遣教員が、前記のように内定したとの連絡がありました。来年度は、20名の派遣です。つきましては、恒例の道教委との共催の「在外教育施設帰国者報告会」と本会主催の「在外教育施設派遣教員激励会」を、下記の通り開催いたします。時節がら、お忙しいとは存じますが、派遣者への激励や助言に多くの会員の方に出席していただきたくご案内申し上げます。お忙しいとは思いますが、激励会だけでも参加いただければと存じます。

平成7年度

在外教育施設帰国者報告会

日 時 平成8年 3月13日(水) 午後1時00分～5時00分
会 場 ホテル アカシア 会議室
住所 札幌市中央区南12条西1丁目 電話 011-521-5211
主 催 北海道教育委員会 北海道国際理解教育研究協議会
日 程 12:30 受付 13:00～15:30 開会式・研究協議
15:30～17:30 グループ別会議(派遣地域別 *平成8年度派遣者も参加
されます。)

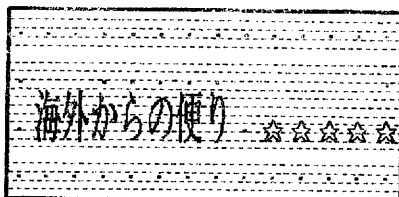
平成8年度

在外教育施設派遣教員激励会

日 時 平成7年 3月13日(水) 午後6時00分～8時00分
会 場 ホテル アカシア 3F はまなすの間
住所 札幌市中央区南12条西1丁目 電話 011-521-5211
会 費 6000円
宿 泊 (自己負担 互助会の宿泊券を利用できます)
申し込み 激励会の申し込みは、3月8日(金)まで葉書(住所、氏名、学校名、電話、派遣経験者の場合は派遣年度、派遣先学校名を記入)で申し込んでください。
間にあわない場合には、電話でも結構です。
尚、3月8日(金)以降にキャンセルされる場合は、会費はいただきます。

連絡先 高橋 承造 (北海道国際理解教育研究協議会 事務局次長)
昼間 札幌市立澄川南小学校 電話 011-584-2115
札幌市南区澄川5条13丁目7-1
夜間 札幌市南区真駒内南町5丁目3の7 電話 011-584-6557

*派遣依頼が必要な方は、事務局までご連絡下さい。



海外教育施設に派遣中の
先生方よりお便りが届いています。

平成5年度派遣 パリ日本人学校 類家 斉先生（札幌市立緑丘小学校在籍）より
元気なお便りが参っております。パリの爆弾テロ騒ぎで社会科見学が中止になったと
か、充分、お気を付けください。

平成5年度派遣 台中日本人学校 徳光 茂先生より（蘭越町立蘭越中学校在籍）
3年目のワープロもついにダウン！修理もままならず……しかし、負けずに活躍中の
ことです。元気なお便りが参っております。

平成5年度派遣 ブラジル マナオス日本人学校 河野 匡宏先生より
（広島町立広葉中学校在籍）元気なお便りが届いています。鞠子校長以下3名の道産
子先生がいるマナオスで1年間の任期延長が決定したそうです。ますますのご活躍お
祈り申し上げます。

平成5年度派遣 韓国 釜山日本人学校 坪内 夕季子先生より（旭川市立啓明小
学校在籍）現地レポート『アサン・チュルバル』では学校の様子ばかりでなく日本・
韓国の文化の違いなど現地でしか経験できない事柄が多く考察されています。

平成5年度派遣 ペナン日本人学校 森峰 智子先生より
（富良野市立富良野小学校在籍）わずかの任期を残して、理不尽な大家のため引っ越
しを余儀なくされるなどなかなか現地生活も大変なようです。

平成6年度派遣 ミラノ日本人学校 林 晃淳先生より（当麻町立当麻中学校在籍）
ミラノの子どもたちとバスケ・サッカーなどをして元気で活躍中とのことです。

平成7年度派遣 マナオス日本人学校 高木 司先生（附属旭川小学校在籍）より
『アマゾンだより①～⑩』による現地の詳しい様子が報告されています。

平成7年度派遣 インドネシア バンドン日本人学校 廣島 直先生（札幌市立平岡
南小学校在籍）の『バンドン通信8号』によると水道屋さん、大家さんとの戦いはま
だ続くようです。頑張ってください！

先日、北海道国際協力フォーラムに参加する機会をえた。この会には、開発教育の推進をめざし、北海道ばかりか青森など、全国各地の実践家が参加した。

この中で、本会の会長である石田先生がコーディネーターをされた、第1部会（開発教育を教育現場でいかすには）は、青年会議所、NGO関係者、そして教師とたくさんの人々が参加し活発な討論がなされた。

この会に参加して、たくさんの人々が開発教育に興味や関心を持ち、実際に活動されていることに驚かされた。そして、その活動も一過性のものではなく、日本語教室の開催、開発教育の教材開発、人の交流と地道な活動が継続されている。まさに、国際理解教育の活動は地域社会に根付いているのである。

また、「教育の場」という言葉の広がりも強く感じた。我々は教育といえばイコール学校現場という捉えをしていたが、実は学校のまわりにはたくさんの教育の場があるということである。そして、たくさんの人々が意欲的に教育に参加し子供たちを育てているということである。

国際理解教育の実践は、ややもすると学校文化のなかに安住しがちな私たち教師にとって、するどい刺激を与えてくれるとともに、子供たちと地域社会とのかかわりを生み出すかけ橋になってくれるかもしれない。そんな、新たな国際理解教育の可能性を感じた会であった。

◆ ◆ ◆ ◆ 図 書 紹 介 ◆ ◆ ◆ ◆

国際感覚ってなんだろう

岩波ジュニア新書

渡部 淳 著 岩波書店

《著者紹介》

渡部 淳 (わたなべ・じゅん) 1951年生

ICU高等学校教諭(社会科)

生徒の自主的な学習能力や表現力を伸ばす指導を追求・実践するとともに、おおくの帰国生・留学生と接した経験をもとに国際理解教育の実践に取り組んでいる。

実践を通して、私たちは国際理解教育は知識や理解ではなく、子供たちとともに未来に向う生き方を学んでいくんだということが明らかになってきた。その生き方とは何であろう。英会話ができ、外国人とそつなくつきあえるようにすればいいのであろうか。

著者は、「国際感覚」という言葉をキーワードにしてその生き方を示唆してくれる。そして、一人の人間として異文化と向き合い、平和・人権・環境など人類共通の問題解決に参加できる「地球市民」としての資質こそが大切だと主張している。

とくに、この本においては、著者が教えるというスタンスではなく、著者自身も一緒に生き方を考えていくという視点で「国際感覚」を捉えている。そのため、国際感覚を理解するのではなく、身に付ける具体的な手立てを平易に示している。

このなかで著者が主張しているように、教師は、子供たちを地球市民として育て、自分の利益ばかりではなく相手の利益を考えて、たえず新しい提案をし、話し合える態度を身につけられるようにする学びを考えなければならないと思う。

この本は、ジュニアとしているように、子供たちを対象として書かれている。そのため、この本を教材として利用することも可能である。

事務局会議から

1月29日(月)に事務局会議が行われた。旭川大会の成果を確認し、来年度の会の運営の重点について話し合われた。とくに、旭川大会で課題となった研究の進めかたについては、昨年秋から札幌支部との話し合いを受け活発な話し合いが持たれた。

- ・95年度の会務報告
- ・95年度帰国報告会ならびに報告集について
- ・95年度派遣教員の研修会ならびに激励会について
- ・96年研究について

10月に開催されることになった札幌大会の開催にむけて研究主題また、研究の視点についての説明

編集後記

旭川大会に参加して思ったことは、皆さんの熱気あふれる討議の渦でした。これが国際理解を創造していくエネルギーだと思います。そんな皆さんの交流の広場にこの広報を充実させなければならないと責任の重さを実感しました。

齊藤吉文・中村淳